

高校1年生現代社会取り出し授業、高校生としての学びをどうつくるか — 社会科の学び・日本語力の伸長—

小川 郁子 (東京都立高等学校 地歴・公民科 講師)

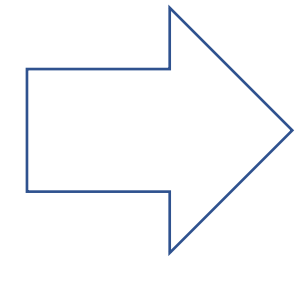


おがわ

問題の所在



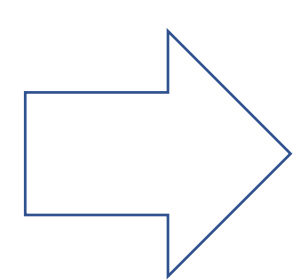
高校生として、現代社会を学びたい！でも、在籍学級では日本語が難しくて授業が分からない



生徒たちの特性を把握し、必要な配慮を考えて、授業を計画し、高校生としての社会科の学びを達成しよう。

実践の場

- ・都立の三部制定時制高校
- ・3教科入試
- ・アクセスが良い



日本語の不十分な生徒が集まる

1年生	在籍数	取出対象数
午前部	84	4→※6
午後部	84	7
夜間部	29	9
合計	197人	22人

※3学期に2人編入学

1年生の支援の機会

1. 取り出し授業：
国語総合、現代社会（必修科目）
2. 日本語授業：
週1回2時間（自由選択授業）
3. 補習：昼休み・夕休み（ほぼ毎日）
4. 部活：One World（週2回）

対象者

滞日期間 : 半年～4年(入学時)
出身国 : 中国、フィリピン、ネパール、シンガポール、タイ、シリア

実践内容

課題を探る

学習語彙、文法意識、漢字の知識が不足で、教科書が理解できない。おしゃべりはしても、抽象的な話題は話せない。

対応策を考える

- ・やさしい日本語で授業をする。
- ・視覚情報を多用する。
- ・ワークシートを使う。英語・中国語の補助を書き入れる。
- ・口の字形に座り、話しやすくする。
- ・母語で話せる。スマホを活用する
- ・考査は日中英語で行う。

効果を検証する

- やさしい日本語で理解できた。
- 写真を囲んで座り、視線を集中して安心して日本語で話した。
- ワークシートで、流れがつかめた。難解語彙が母語で確認できた。
- ×母語の会話は、授業と関係ないおしゃべりにつながった。
- ×母語訳の支援は授業の進行を遅らせた。

日本語力の不足

日本語力の向上

社会科を通じてつけたい日本語力
教科内容を日本語で話せる力。
自分の考えをまとめて書く力。
教科書を読み取る力。
教科の基本的な漢字の読み書き

- ・課題を設定して意見を出しあう
- ・ワークシートに考えを書きこむ。
- ・毎回重要語句の漢字読みテスト

- 重要語句の漢字の読みができた。
- ×漢字テストの姿勢にクラス差。
- ?日本語力の向上は考査答案からは証明できず。

教科内容の理解

中学校公民を理解できていない/
学習していない

- ・中学校公民の内容に基づく。
- ・母国で既習の内容から始める。

- 取り組みやすくアレンジし、わかりやすく学べた。
- 環境問題は自分の国の取り組みを調べ学習できた。

宗教・価値観・文化の違い

女性の地位、自殺・中絶を認めるか、臓器移植の可否、LGBTを認めるか等、考えの違いが大きい

- ・倫理社会単元は扱わない

- ?宗教や国による考え方の違いは、議論の対象にしなかった。

日本社会への関心

当事者意識がない。日本のことは日本人が考えればいい

- 日本の政治のしくみの単元は扱わず、世界市民として必要な基本的人権に焦点を絞る。

- ?民主主義は概念の理解が困難だった。基本的人権は、積極的に学習できた。政治の動きがある年には関心をもってほしいが、方法模索中

情報源の違い

母語で情報を得て、日本の情報を知らない。

- 日本で働く上で必要な知識を、授業で扱い、理解を確認する。

- ◎在籍学級の求道授業でも挙手し、内容をほとんど理解できたと感じる。

在籍学級との比較

取り出しは在籍と同等の学習か不安。大学受験に不利にならないか。

- 教科書から単元を選び、教科書の記述に基づいて授業を展開する。

- 安心して参加し、2年の世界史も取り出し授業参加を希望した。

成果と課題

- 取り出し授業の可能性 教科語彙は難解だが、基本にしよれば、取り出し授業で十分高校生の学びが実現できる。他教科への拡大を期待。
- 学び合いの効果 日本語力、教科の知識・学力に差があっても、助け合い、学び合いによって有益な授業ができた。
- 教科教員との連携 在籍学級の社会科教員への働きかけを行ったが、授業見学はなく、どう理解をしてもらうか今後の課題。
- 日本語力の限界 最低N5レベルの日本語力があり、支援できる同国生徒がいれば実施可能。日本語力がそれ以下では対応は困難。

こうした試みを積み重ね、高校における取り出し授業に対する理解を広げていきたい